

私のハラハラドキドキ海外旅行体験

宮地 洋子

初めて海外旅行に行ったのは27年前。8日間のイタリアパックツアーだった。最初で最後のヨーロッパへのパックツアーになった。自由に時間をかけて美術館が見学できない等々、自分に向いてないと感じることが多々あった。

翌年、英語も仏語もできないのにパリ10日間の個人旅行に夫と共に出かけ、以来ほぼ毎年1回ヨーロッパの国々を訪れた。

当然爆笑ものや泣きたくなるような悲惨な失敗は数知れず。いつまでもパントマイムの意思疎通にも限界を感じ、夫はイタリア語、私は英語の教室に入ったが、50半ばからでは一向に上達せず、特に聞き取りで何度も失敗を繰り返した。

しかし、ルーヴル美術館でまる一日半を堪能したり、蚤の市をうろついたり、地元の人で混み合う市場の食堂で絶品スープを味わったり、前頭葉活性化に繋がる楽しい体験も多かった。

もちろん、反対方向の電車に乗ってしまい、それが終電で、暗闇の広場に茫然自失で立ち尽くしたり、レンタカーの受取場所が食い違って慌てたり、置き引きにあたり、心臓が止まりそうなドキドキ体験も沢山あった。

20kgを超えるスーツケースを引きずりながらホテルを探してウロウロしたり、列車に押されながらよじ登るのに体力の衰えを感じるようになった。



チンクエテルレのベルナッツァ



ベルガモ遠景



ベルガモ大聖堂

ツアーにも色々あるよと友人も言う。一昨年に参加したラオスツアーは、小さな旅行社ならではの私達の要望に沿ったきめ細かなプランで、しかも大手旅行社の同じようなツアーより低価格だった。心臓を守りながら、前頭葉活性化も得られる自分でツアーを作るのもいいかもと思う昨今だ。

来年秋、中国杭州で銭塘江の大逆流を見てその付近の西湖、蘇州等を巡る旅を今計画している。

この文章を読んで下さってるあなた、ごいっしょにいかがですか？

(★写真は今年訪れたイタリアの小さな町です)